



独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター広報誌

はらじゆくかわら版

2026
冬



<もくじ>

* 院長挨拶

* 泉区医師会会長挨拶

* YMC NOW!

～国立病院総合医学会レポート
緩和ケア研修会開催 ほか～

* リハビリ通信、看護学校だより

* YMC部門探検

「蔵王で見上げた樹氷」 医療情報部職員撮影

院長挨拶

新春を迎えて



院長 宇治原 誠

あけましておめでとうございます。新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、数年にわたり準備してきた診療機能の充実が、具体的な成果として実を結んだ一年となりました。眼科の外来注射室を新設し、これまで手術室で行っていた眼科の注射療法を外来で実施できるようになり、手術室の混雑を緩和することができました。また、重症治療室（HCU）を新設し、従来の集中治療室（ICU）や冠状動脈疾患集中治療室（CCU）で対応していた重症患者への治療を補完する体制を整えました。さらに、脳卒中集中治療室（SCU）を6床から9床に増床し、脳神経疾患領域での診療体制を一層強化しました。当院はこの分野で高い実績を有していますが、今回の増床により、より多くの患者さんに迅速かつ適切な治療を提供できるようになります。

加えて、ロボット支援手術を開始しました。8月に泌尿器科手術から導入し、12月からは消化器外科手術にも拡大しました。これにより、低侵襲で精度の高い手術が可能となり、患者さんの負担軽減と術後回復の向上が期待されます。一昨年からは始めた無痛（麻酔）分娩も順調に増加しており、安心・安全な出産環境の提供に努めています。さらに、手術室の増室により、手術件数の増加と待機期間の短縮を実現しました。

本年は、医療機器の更新・新規導入を進めるとともに、医療DX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に導入し、診療情報や技術のデジタル化を推進します。これにより、業務の効率化とともに、より安全で質の高い医療を提供できる体制を整えてまいります。また、職員の教育・研修にも力を注ぎ、専門性の高い医療人材の育成を進めます。

横浜医療センターは、地域の皆さまの健康を守り、医療機関との連携をさらに深めながら、地域医療の発展に貢献してまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



情報発信中!

YouTube

当院の紹介から、疾患についてのレクチャーなど、さまざまなコンテンツがあります。



Instagram

産科病棟インスタグラムです。当院で産まれたベビーたちの紹介やイベントのご案内を掲載中。



X (旧Twitter)

リアルタイムの情報発信ツールとして、休診情報や当院の今をお知らせしています。



泉区医師会会長挨拶

一般社団法人横浜市泉区医師会会長 渡辺 豊彦
 (医療法人順豊会 渡辺こどもクリニック院長)



新年あけましておめでとうございます。令和7年6月より泉区医師会会長となりました渡辺豊彦と申します。泉区医師会は、常日頃より市民の皆様の健康と医療に貢献したいと願っております。泉区医師会としましては、皆様の健診・検診、予防接種（インフルエンザや带状疱疹ワクチン接種、妊婦さんや高齢者へのRSワクチン接種など）、疾患に対する治療、クリニック間、診療所と病院との密なる連携、休日急患診療所での診療、介護認定審査、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、在宅医療相談室での対応、市民向けの医療講演会の開催、健康相談事業 福祉保健センターでの乳幼児健診の協力など多角的に勤めております。

泉区歯科医師会および泉区薬剤師会との連携を深めており、また横浜医療センターとは毎年病診連携の会を開催して、病診連携を密にしております。紹介、逆紹介で、市民の診療に切れ目のないように努めております。泉区医師会は、横浜医療センターには、大変お世話になっております。特に小児の患者さんの入院に対しましては、殆ど受け入れていただき、感謝いたしております。

また小児の精密検査や治療に関しましてもご指導いただいております。この2年間で、ゆめが丘駅周辺が一つの町として充実してきました。若い方々が転居されてこられ、マンションも建つようになりましたので、泉区医師会としましてもこのゆめが丘地区に重点を置いて充実した医療が受けられるようにと共に発展を願っております。

今年は、戸塚区から泉区が分区して40年となります。泉区医師会員および泉区医師会スタッフは、今年も皆さまにとって、良い年になりますようにお祈りいたしております。



令和7年度 病病・病診連携の集いを開催しました

11月27日に「病病・病診連携の集い」を開催し、地域の診療所や病院、介護関連施設の皆さまと意見交換を行いました。当院は横浜市南西部に位置しており、戸塚区・泉区・瀬谷区をはじめ、藤沢市や大和市、鎌倉市からも多くの患者さんをご紹介いただいております。



第一部は院長より、当院の現状や情報提供と、脳神経内科の上木医師による認知症診療と地域医療連携について講演がありました。早期アルツハイマー病適応の「レカネマブ・ドナネマブ」や、MCI(軽度認知障害)など幅広くカバーしている状況をお話しました。紹介のタイミングなど多くの質問を頂戴し、関心の高さが伺えました。第二部では「顔の見える連携」を掲げ、懇親会を開催しました。戸塚区医師会長の三木先生(戸塚西口整形外科院長)よりご挨拶をいただき、色々な地区の皆さまとの交流が生まれた日となりました。



YMC NOW!

第79回 国立病院総合医学会レポート

11月7日（金）～8日（土）に、石川県金沢市において“国立病院総合医学会”が開催されました。当院からも多くの職員がポスター発表や口演、シンポジウムなどに参加しました。

金沢駅を出てすぐにある、石川県立音楽堂と周辺のホテル、駅地下広場のもてなしドームなど、数か所が会場でしたがアクセスの良さに驚きました。建築家・隈研吾氏作の「鼓門」に出迎えられて、この日のために準備をしてきた演題を携えて、発表本番を迎えました。当センターは40以上の発表を行い、ベスト口演賞1題、ベストポスター賞には6題が選ばれました。

国立病院機構には北海道から沖縄まで、多くの医療機関があります。全国にいる仲間たちが、それぞれに課題や研究材料を見つけて発表をするこの医学会は、日ごろの業務を見つめ直したり、解決のためのヒントをもらったりできる場となっています。自施設以外の発表やシンポジウムに参加して、人脈や知識を得て、自分たちの業務に還元できると感じました。



金沢駅「鼓門」



ベスト口演賞を受賞した広報委員
広報部長（左）と小井土副薬剤部長（右）

当院広報委員会の「生成AI活用による動画コンテンツの時短作成と病院PRへの応用：その活動評価」についての発表が、ベスト口演賞を受賞しました。ホームページに既に公開されている「病院ブログ」記事を使用し、生成AIによる動画コンテンツを作成し、YouTube™への公開につなげ、その効果を検証して発表されました。

トレンドとしては「医療DX」や「ゲノム医療」があげられており、生成AIやRPA（ロボットによる業務自動化）に関する発表が多くありました。



令和8年度は、パシフィコ横浜での開催が予定されています。当院の宇治原院長が大会長で「Strategy(ストラテジー)～データ・エビデンスを活用した持続可能な病院運営～」をテーマとし、さまざまな議論を深めていく大会を目指しています。

開催地の石川県は、令和6年の元旦に起きた能登半島地震の被災地でもあります。特別企画として「市民公開プログラム“能登半島地震をこえて～地域の絆と命を守る力～”も開催されました。震災直後のDMATによる活動や弁護士による生活再建支援について、事例を交えながらのお話がありました。令和7年末までに公費解体作業を終え（通行止めで入れない地域等を除く）、本格的な復興に向かっていきます。

一部の道路を除き奥能登へ向かう道路も復旧。地盤が隆起して船が入れなくなった輪島港は水深確保のため浚渫工事中で、同じく海岸近くにある和倉温泉(和倉港)は、護岸復旧工事中ですが、20件ある旅館のうち、9件が営業を再開しています。復旧、復興が現在進行形で行われている奥能登は、今しか出会うことができません。機会を見つけて、奥能登に出かけてみませんか。



緩和ケア研修会を開催しました

YMC NOW!

横浜医療センター主催、緩和ケア研修会を12月13日（土）に開催しました。すべての医療従事者が緩和ケアを学び、緩和ケアを必要とするすべての人に届けられる社会の実現を目指し、厚生労働省の委託事業として毎年開催しています。研修会はe-learningと集合研修で構成され、双方の修了が必要です。まずはe-learningの復習から始まり、スモールグループでの「コミュニケーション・ロールプレイ」で患者、医師、看護師役となり「悪い知らせ」を伝える状況にどう取り組むか、を学びます。実施後は、「どう伝えたか」「伝えられたときに感じたこと」などを振り返ります。基本的なコミュニケーションスキルを取り入れたロールプレイを通じて、がん医療にお



ける患者・医師間のコミュニケーションの重要性を認識するために大切なセッションです。参加者の皆さんは、始めこそ緊張した様子でしたが、次第に声も大きくなり、ロールプレイにも熱が入っていました。普段は伝える側にいることがほとんどの参加者も、「伝えられる側」になったときに「もう少しこうだったら良かった」などの感想を持ち、双方の気持ちを考えながら進めることが出来ていたのが印象的でした。

グループ演習では、「全人的苦痛に対する緩和ケア」をテーマに、決められた症例について、各グループで事例検討を行います。痛みの訴えに対し“痛みの評価とそれに基づいた適切なマネジメントが行える”ように議論を進めました。



直接的な痛みと、痛み以外の身体症状についてそれぞれ評価をし、治療やケアについて考えていきます。鎮痛薬の処方、場合によっては放射線照射による緩和、その他、薬剤治療による便通のコントロールや吐き気などへの対応、食事の工夫など、それぞれのグループから発表がありました。また、この演習では患者の「社会的背景」についても触れられており、趣味や嗜好を考慮したケアの意見もたくさん発表されていました。



また、療養先の選択や地域連携、がん患者等への支援についての講義もあり、退院後の生活も考えながら、多職種連携で患者を支えることも重要となります。特に患者支援サービスや療養場所について、多くの質問がありました。修了した15名の皆さんの、今後に期待をしています！



Hinotori(ヒノトリ)手術の適用を拡大

昨年から手術支援ロボット“Hinotori”を導入し、泌尿器科手術から実施しています。昨年末には、外科手術への適用を開始し、指導医のもとに実施され、1症例目の手術を無事に終わりました。今後は婦人科への拡大も予定しています。より質の高い安全な手術を提供できるように取り組んでいます。



外科医長
山本 悠史医師



リハビリ通信

転ばないための靴選び

前号の「市民公開医療講座」の記事で「自分に合った靴選び」が重要なポイントです、とご紹介しました。では、実際にどのような靴を選べば良いか、イラストでご紹介します。かかとはピッタリ、つま先は余裕があるもの、底は厚めでクッション性の高い方が膝への負担が減ります。また、午前中よりも夕方の方が足がむくみやすいので、一般的には夕方をおすすめしますが、個人差があると思いますので、選ぶタイミングはご自身で調整してください。

また、転倒は介護が必要になる原因の3位にランクインしており、室内で起こりやすいとも言われます。右の写真のように、コード類やカーペットのふち、スリッパなど、わずかな段差や障害物でも転倒の原因になることがあります。高齢者の方だけでなく、家族や地域の方々にも知っておいていただき、転倒による事故を防ぎましょう。

靴の選び方



家の中の転びやすいポイント



看護学校だより

独立行政法人 国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校

令和8年度 入学者選抜

確かな知識と技術で
地域に貢献できる
看護師になりませんか

詳細は
学校HPへ!



令和8年
4月入学に
まだ間に合う!

	入試日程	併願の可否
一般選抜Y4	2月27日 (金)	専願のみ
一般選抜Y5	3月23日 (月)	専願のみ

募集要項はコチラ→



お問い合わせ Tel 045-853-8322

横浜医療センター附属横浜看護学校 公式SNS



12月に学生自治会によるクリスマス交流会を実施しました。日頃お世話になっている患者さんへ、学生ひとりひとりが心を込めて作成したクリスマスカードをプレゼントし、病棟にはやさしい笑顔が広がりました。

横浜医療センターではクリスマスソングの合唱も披露され、会場に温かな拍手が響きました。サンタ帽をかぶった学生の姿に患者さんから「元気をもらえたよ」「素敵なおもてなしをありがとう」と声をかけていただく場面もあり、学生にとって大きな励みとなりました。

学生は患者さんとの会話や交流を楽しみながら、人と人との関わりによる看護の魅力を改めて感じるひとときとなりました。皆さまとのつながりにより、学生が成長できる貴重な機会となりました。

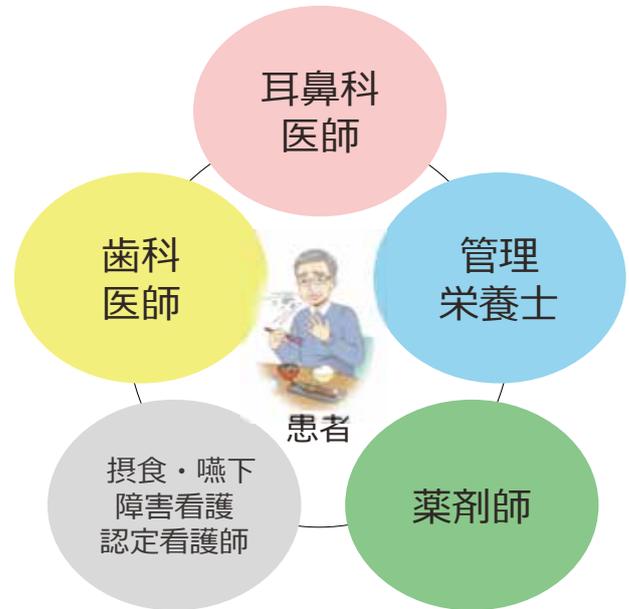


YMC部門探検

 栄養管理室の最新トピックスについて

摂食・嚥下チームの質向上

これまで、当院の摂食・嚥下チームは歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、管理栄養士で共同し、週3回の回診を行っていましたが、この多職種連携を更に強化し、診療報酬化するため、**12月9日より耳鼻科医師、薬剤師を新たに加え、毎週火曜に多職種カンファレンスをスタートしました。**これにより、介入患者さんの内服方法や薬の調整について提案、嚥下内視鏡検査(VE)をみながらカンファレンスを行うことができるようになりました。ぜひ、摂食・嚥下チームへの積極的な介入依頼をお待ちしています。

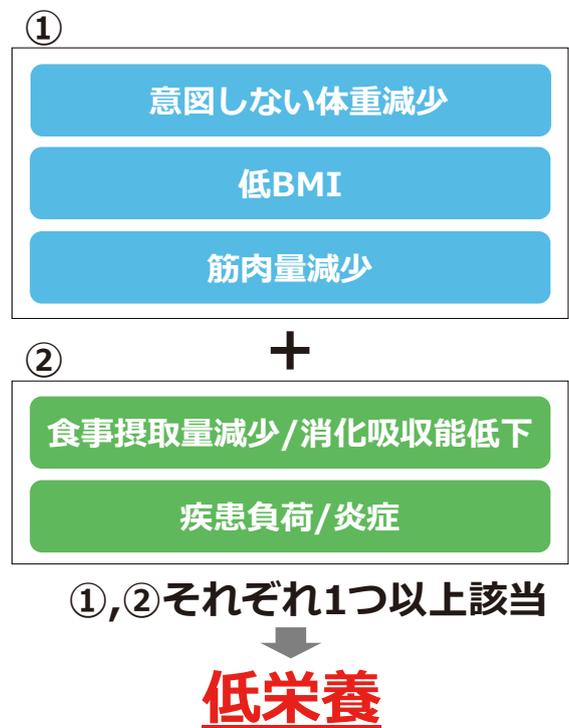


国際的な栄養評価法「GLIM基準」の導入

現在、当院では「GLIM基準」と呼ばれる国際的な栄養評価法の導入準備を進めています。これは、従来の主観的な栄養評価であるSGAとは異なり、体重の変化やBMI、筋肉量、食事摂取量、炎症などを用いた客観的な低栄養診断ができるため、評価者による誤差が少なく、安定した栄養評価を行うことができます。

世界保健機関 (WHO) の国際疾病分類の最新版「ICD-11」では、成人の低栄養は単なる「状態」ではなく「疾患」として扱われ、2025年10月に「成人低栄養」として正式に疾患認定されました。

当院では、このGLIM基準を今年度中に導入予定のため、患者さんの低栄養状態を正確に把握し、より良い栄養管理ができるよう引き続き取り組んでまいります。



今年度のYMC部門探検で管理栄養士の業務をいくつか紹介させていただきました。

外来・入院問わず、食事調整や栄養サポートなどが必要な場合は、管理栄養士に是非ご相談ください。

＜診療のご案内＞

* 当院は完全紹介制です。初診の場合はかかりつけ医等からの紹介状が必要です *

・ 初診受付時間は、午前8:30～10:30です。下記診療科以外は予約なしで受診できます。

＜初診時予約が必要な診療科＞

精神科、乳腺外科、緩和ケア内科、産科、呼吸器内科、脳神経内科、歯科口腔外科

※ 当院で分娩を希望される方で、他院に受診が無い方は紹介状なしでも受診できます ※

・ 診察の予約や、CT・MRI等の検査予約は、かかりつけ医にご依頼ください。
(患者さんからの予約は受け付けておりません)

・ あらかじめ当院ホームページ等で休診情報、外来担当医表をご確認ください。



＜交通アクセス＞

【路線バスでお越しの場合】※ いずれも「横浜医療センター前」または「横浜医療センター」下車

・ 戸塚駅から
戸塚駅西口バスセンター2番のりばから
神奈中バス 戸50、戸51、戸52、戸55
戸56系統に乗車

・ 大船駅から
大船駅西口 5番のりばから 神奈中バス
船21、船22、船24、船25系統に乗車

・ 藤沢駅から
藤沢駅北口 5番のりばから
神奈中バス 藤54、藤55系統に乗車

・ 立場駅から
立場バスターミナル 4番のりばから
神奈中バス 船21、船22系統に乗車

※ 大船駅東口から小型乗合バス「こすずめ号」で
「横浜医療センター」下車（平日昼のみ運行）

※ 東俣野俣野広場前から地域貢献車「ひがまた号」で
「横浜医療センター」下車（平日昼のみ運行）

【車でお越しの場合】

国道1号・原宿交差点から環状四号線を北方向に進みすぐ。

瀬谷・泉方面からは環状四号線を大船方面に進み、
原宿交差点手前。駐車場555台（有料）あり。

* 横浜市戸塚区原宿3-6 0-2



＜病院理念＞

最適な医療を提供し、地域に信頼され共に発展する基幹病院として社会に貢献します。

- ＜基本方針＞
1. 患者さんの人権を尊重し、信頼関係に基づいた、安全で良質な医療を提供します
 2. 地域の医療機関と密接に連携し、地域完結型医療の中心的役割を担います
 3. 職員の教育研修の充実を図り、能力向上と人材育成に努めます
 4. 臨床研究に積極的に取り組み、医療水準の向上に貢献します
 5. 職員が自らの成長を実感できる、働きがいとなる病院をつくります
 6. 健全な病院経営に務め、安定して持続可能な運営を目指します



独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター はらじゅくかわら版

<https://yokohama.hosp.go.jp/>

発行日：2026年3月（第90号）
発行行：横浜市戸塚区原宿3-60-2
横浜医療センター 広報委員会
発行責任者：宇治原 誠

横浜医療センター 病院ブログ
<https://yokohama.hosp.go.jp/blog/index.html>

